

設計・施工で、南仙台に最先端医療の 歯科医院を建設。医療環境にも注力



南仙台どうどう歯科クリニックの外観完成予想図(上)と内部(下左)。百々明院長(下右)



南仙台どうどう歯科クリニックの位置図

大型商業店舗や事務所、福祉医療施設などに特化した不動産活用と建設業の(株)福重企画による、新しい歯科医院「南仙台どうどう歯科クリニック」が完成、7月に開業する。不動産に付加価値を付けるという同社の強みを活かした案件で、特定建設業としての設計・施工力も発揮した。同社では、今後とも商業・事務所、福祉・医療施設などに特化した営業展開に力を入れる。

視認性の高い設計デザイン。 天井高で明るさを実現

開業地は、仙台市太白区東中田6丁目5の28の敷地776平方メートルで、もともと駐車場用地として使用されていた。ほぼ国道4号仙台バイパス沿いで、周辺には、大型マンションのセザール南仙台や仙台市立中田中学校などがあり、交通や生活利便施設に恵まれた住宅地に囲まれている。JR南仙台駅まで850メートル、徒歩約10分の位置にある。



(株)福重企画 営業部次長 萩原 達郎氏

完成した建物は木造2階建て延べ面積197.65平方メートル。1階が診察室、治療室で2階が院長室とスタッフルーム。福重企画が提案して、実現した。設計に当たっては、百々院長の提案も加味しながら、建物に凹凸による奥行きを出し、落ち着きがありながら仙台バイパスからの視認性や目に引きやすいデザインを実現した。屋根上のサインは(株)アルファのデザインだ。

コンセプトについて同社の萩原達郎営業部次長は、「地域から愛されるデンタルクリニックを第1に、患者さんが通いやすい雰囲気とするため」

「精密治療を提供するマイクロスコープを導入」

宮城県内初の医療機器 ブライトビジョン3200
マイクロスコープは、全国の歯科医院で5%程度しか導入していない。南仙台どうどう歯科クリニックでは今回の開業に際し、宮城県内では初となるブライトビジョン3200を導入、最先端の歯科治療を提供する。

「歯科医療は細かい治療の連続です。むし歯治療のため、むし歯や感染菌の除去など、肉眼では捉えきれない精密さが要求されます。しかし肉眼で見えない場合には、これま

での治療の経験と勘に頼らなければならぬことが多かったのが現実でした」と、百々院長は語る。このマイクロスコープ導入で、肉眼では見えない最大20倍程度まで拡大、観察できるといふ大きなメリットがあり、むし歯や歯石の取り残し、再治療の頻度に大きな差が出てくる。百々院長はマイクロスコープ治療の経験を多く積み、今回の開業に備えてきた。



マイクロスコープを使用した治療風景。写真はヨシダ社プリママグナαを使用

め、天井を通常の2・4倍から最大4倍と高くし、開放感と採光による明るい医院としました。また医院スタッフと診療動線を分け、設計に落とし込みました」と話す。診察・診療スペースは、患者同士が顔を合わせないような半個室とし、曇りカラーのパーテーションで仕切った。全スタッフから患者が見渡せるよう、消毒コーナーなどスタッフの治療準備スペースをオープンキッチンのように工夫した。技工コ



(株)福重企画 代表取締役社長 福重 祐作氏

「地域医療の充実に向けて」



青葉区柏木にメディカルビルを取得
(株)福重企画では、社会インフラの医療環境づくりに力を入れており、2002年10月には東北大学病院に隣接する仙台市青葉区柏木の柏木メディカルビルを取得、運営している。敷地は416.37平方メートル、5階建て延べ752.86平方メートル。福重社長は「継続的に地域住民の環境を支えることができるのではないかと考え取得しました。今後も、商業施設や医療施設の開発に力を入れていきます」と語っている。

「ナーも治療とのタイムロスが出ないような動線とした。最も特徴的なのは、キッズスペース付きの診察・診療室を設けていること。室内はすべてバリアフリー。福重社長は「患者さまがリラックスできるような空間作りに注力しました」と語る。

百々院長は「貴方の最後の歯科医院として、長くに愛されるデンタルクリニックを目指したい」という。同氏は1985年仙台生まれ。東北大学歯学部を卒業後、2年間の研修医を経て市中の歯科医院で臨床を重ねた。日本歯周病学会、日本臨床歯周病学会、日本顕微鏡歯科学会会員として、マイクロスコープを使用した精密歯科の臨床を重ねてきた。